

南半球便り（その 78）：アルバニー首相訪日

6 月 2 日

先週、首相に就任して間もないアルバニー首相が新任のウォン外相に伴われて日本を訪問しました。私もそれに先立って帰国し、受入れに関わりました。



日米豪印首脳会合（写真提供：内閣広報室）

1. 豪州連邦議会選挙の結末

豪州選挙の様子については、この「[南半球便り](#)」([その 72](#))で説明したとおりです。その後、5 月 21 日（土）に投票が行われ、現在開票作業が引き続き行われています。

というのも、投票には主として、（1）21 日に投票所で投じられた票、（2）期日前に投票所で投じられた票、（3）地方在住、海外在留豪州人から寄せられた郵便投票から成り、特に郵便投票の集計作業に時間を要しているためです。

豪州選挙管理委員会の発表によれば、現時点（5 月 31 日）の「優勢」候補者は、下院総議席数 151 のうち、労働党が過半数の 77 議席、保守連合は 58 議席（自由党 27 票、ク

イーンズランド州自由国民党 21 議席、国民党 10 議席)、グリーンズは 4 議席、無所属が 10 議席 (うち、環境保護重視のいわゆる「ティール・インディペンデント」は 9 議席) となっています。

労働党が下院で単独過半数となる議席を獲得し、労働党政権が発足した次第です。

2. 就任直後の大仕事

労働党のアルバニーギー党首が総督公邸に呼び込まれて首相就任式を行ったのは、23 日 (月) 午前のことでした。その後、間髪をおかずにアルバニーギー新首相、ウォン新外相は軍用機で日本に向けて飛び立ちました。



(引用元：アルバニーギー首相ツイッター)

というのも、昨年 9 月にアメリカ合衆国ワシントンで開催されたクアッド (日米豪印) 首脳会合に続き、第二回目の対面での首脳会合が東京で開催されることとなっていたからです。

もちろん、選挙前から、こうした外交日程は、私を含む日本政府関係者から保守連合、労働党双方にそれぞれ説明し、出席を促していました。それに対して、いずれの側からも、選挙に勝利した暁には是非出席したいとの意向が示されていたのです。

そうはいつでも、選挙後僅か二日後の出発。6週間に及ぶ大接戦の選挙キャンペーンを戦い抜いた上での訪日ですから、日程管理上は「悪夢」と称されていました。肉体的・精神的に大変な強行軍であったことは間違いありません。

したがって、23日（月）夜9時、羽田空港に豪州軍の首相専用機が凜々しい姿を見せ、機内から出てきたアルバニー首相がタラップの上で大きく手を振る姿を見た時、小田原外務副大臣と共に出迎えに赴いた私には、感慨深いものがありました。同首相にとっては何度目かの訪日になるので、私から、「ようこそ日本に再びお越しく下さいました（Welcome back, Prime Minister.）」と申し上げたところ、満面の笑みで深く頷かれたのが印象的でした。



（引用元：アルバニー首相ツイッター）

3. クアッド首脳会合

訪日の最大の目的は、前述のとおり、クアッド首脳会合への出席でした。

モディ首相、バイデン大統領、岸田総理といった経験豊富な常連が出席する中でアルバニー新首相の反応が注目を集めました。

その中で、「豪州では政権は変わったものの、クアッドに対する豪州の関与（コミット

メント)は変わらなかったし、今後も変わることはない。」と発言の冒頭で明言されたことは、各国の関係者を納得させる上で、これほど効果的な発言はないと受け止められました。



(写真提供：内閣広報室)

4. 日豪首脳会談

その後に行われた日豪首脳会談には、私も同席しました。最初の 20 分近くは、首脳同士が差しで、通訳だけが同席する形で実施。その後、同席者も加わって、全体会合が 1 時間近くにわたって行われました。

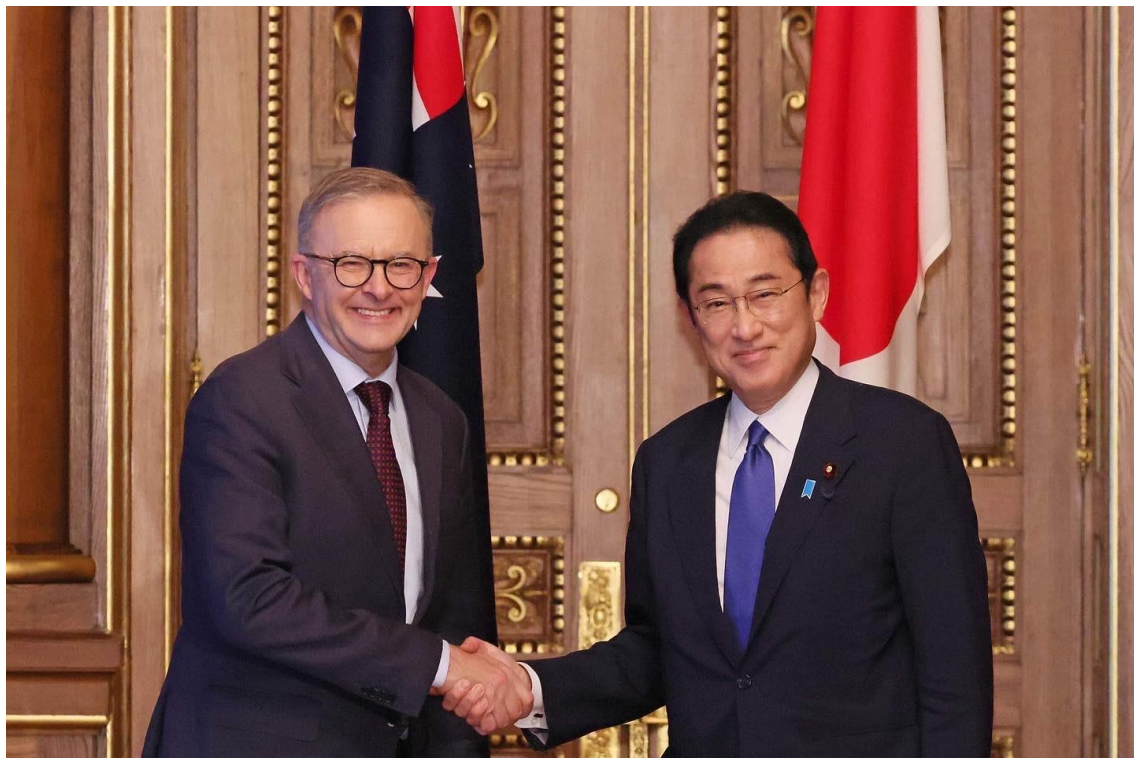
喫緊の課題であるロシアのウクライナ侵略は国際秩序の根幹を揺るがす事態との認識の下、これを厳しく非難し、インド太平洋で同じようなことを決して起こさせてはならない点で一致しました。

また、

(1) 安全保障・防衛分野と経済分野の協力の深化 (1 月に両国の首脳が署名した日豪円滑化協定の早期発効、新たな安全保障協力に関する首脳宣言の発出、経済威圧への対応に当たっての連携、前日に立ち上げられた「インド太平洋地域経済枠組み (IPEF)」を通じての協力等)、

（２）インド太平洋地域の平和と繁栄に貢献するための日米豪印を含む同盟国・同志国との更なる連携（AUKUS 支持、中国・ソロモン安全保障協力に関する協定についての連携）、

（３）気候変動等のグローバルな課題についての協力（水素・アンモニア、エネルギーサプライチェーンの強化、核なき世界の実現、国連安保理改革）
の三つの柱を基礎として日豪が緊密に連携していくことが確認されました。



（写真提供：内閣広報室）

この関連で興味深かったのは、アルバニー首相自らが、高速鉄道への関心の高さを開陳し、日本の新幹線に言及されたことです。新たな日豪協力の対象となるならば、こんな素晴らしい話はないでしょう。

これらだけでなく、東シナ海、南シナ海、北朝鮮などの地域情勢を含めて両首脳の話がかみ合っていたことは間違いありません。首脳会談が終わるや否や、私の対面に座っていた旧知の豪州政府高官が親指を立てるポーズをしてきたことに、象徴されていました。

5. 見送り

25 日（水）早朝、三宅外務大臣政務官と共に羽田空港に見送りに行きました。アルバニー首相にとって就任直後の極めて強行軍の訪日でしたが、ご本人の表情から

は、やるべきことは成し遂げたとの達成感がうかがえました。



日本開催のクアッド会合を活用しつつ、岸田首相のみならず、バイデン米国大統領、モディ印首相とも首脳間の関係構築に役立てていただくことができたようです。マスコミの報道ぶりも、大成功と呼んで差し支えないほどでした。

来年は豪州がこのクアッド（日米豪印）首脳会合を主催する予定です。
また、アルバニー首相からの招請に応じて今年後半には岸田首相の豪州訪問が実現することが期待されます。

こうした頻繁なトップ同士の行き来を通じて、日豪関係がさらなる高みに引き上げられていくことが楽しみです。

山上信吾